

2018年度 学校評価（自己評価）

横浜隼人中学・高等学校

1. 学校は学科やコースの特性に応じた教育を実践している

生徒も保護者も80%以上が良好な回答をしています。それぞれの学科、コースで特性に応じた指導が評価されたものと思われます。しかし、まだまだ改善する余地はあります。特に教科指導、進路指導を中心にさらなる向上をめざしていくことが大切と考えます。

2. 学校は緊急時の対応について必要な訓練や指導をしている

主に年2回実施する避難訓練を通しての評価と思われます。しかし、それ以外にもホームルームを通して災害に対する認識を深めていく必要があります。教員の半数以上が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答しているのは、災害時の備品などの保管場所が周知されていないからと思われます。教員に対する災害意識を高めていきたいと思えます。

3. 学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる

生徒の回答と教員の回答に1割程度の差異があります。教員はいじめ防止に対して積極的に取り組んでいるつもりでも目の届かないところがあると思われます。今以上に生徒一人一人に目を配り、快適な学校生活を送れるようにコースごとの会議などを通じて、教員間で生徒の情報を共有して、早い段階での対応を心がけていく必要を感じています。

4. 学校は校内や通学時の安全に常に配慮している

「登下校の指導」「交通安全講習会（高校1年）」「自転車通学者の安全講習」等を通して安全な登下校に取り組んでいます。それでも、歩行中に事故に巻き込まれることもありました。自転車による事故が増えている近年、被害者になるだけでなく加害者になるケースもあります。登下校の安全確保にさらに努めていきたいと思えます。

5. 学校は個々の生徒の進路に適した教育課程を用意している

本校ではコース制や細かい選択科目を配置することにより、一人一人の進路に適した学習指導を行っています。しかし、生徒の3割近くが「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の評価をしています。教科と進路との結びつきを再度検討して、授業の質的向上に向けて改善していくことが課題です。

6. 学校は進路について個々の生徒に対して丁寧な指導をしている

生徒・保護者に対する進路説明会や三者面談等が適切に行われていることで、生徒・保護者から一定の評価がなされています。しかし、発信の方法に問題があるのか、今ひとつ本校の「面倒見の良さ」が伝わっていないように思われます。また、教員間でも進路に関する打ち合わせをしていますが、教員個々の経験値の差にも問題があると思えます。教員の指導力をさらに向上させることが急がれます。

7. 学校での授業や補習はわかりやすく、学力向上に結びついている

生徒アンケートでは、3分の1以上が否定的な結果です。生徒の学習に対するモチベーションや教員の授業力の向上に大きな課題があります。生徒と教員が互いに目的意識を明確にし、ともに授業を作り上げていけるように、教員研修や教科会などを通して授業力改善に努めます。

8. 学校は教科に関する個別の質問に熱心に対応している

生徒の評価は8割近くで高評価です。保護者の評価でも7割以上の評価が得られています。ただ、教員は9割と懸命に取り組んでいるつもりなので、まだまだ熱意が伝わっていないのが現状です。最近、本校生徒の自学自習する姿勢が高まっていることも一因かもしれません。しかし、今後も一層丁寧な質問対応を心がけていきたいと思えます。

9. 学校は生徒の悩みや相談に親身になってくれる

生徒も保護者も7割近くに対して教員は9割弱の評価になっています。教員は親身に対応しているつもりでもまだまだ、生徒に寄り添えていないようです。生徒の普段の状況をさらに観察し、的確な指導を心がけていくよう努めます。また、スクールカウンセラーとの連携を深め、よりよい学校生活を築いていくことが課題です。

10. 学校は生徒に規律ある姿勢や態度を育てる指導をしている

生徒一人一人が公共心を持ち、また保護者の方々のご指導で規範意識の高い生徒が多いと思われまます。部活動の加入率も高く、誰に対しても気持ち良く挨拶ができる生徒が増えてきています。また本校も生徒指導に力を入れており、社会に出て立派に行動できるように指導して、今後もさらに充実させていきたいと思えます。

11. 学校行事は内容が充実しており、適切な時期に実施している

生徒の半数近くが悪い評価をしています。本校は進学指導に力を入れ、授業時間の確保に努めてきました。しかし、学校生活を充実させるためには行事活動も重要なファクターです。現在の行事活動を見直し、生徒にとって主体的に参加でき、満足度の高い行事を模索する必要があります。

12. 学校は部活動・委員会活動・特別活動等に積極的に取り組ませている

本校は部活動の加入率も高く、積極的に活動しています。また、委員会活動やボランティア活動にも自主的に参加する生徒が増えてきていることも結果に表れています。引き続き学校としてはバックアップしていきたいと思えます。

13. 学校には教育に必要な施設・設備が整っている

教員と保護者の評価が相反する結果となっています。教員は教育環境を今以上に改善し、生徒のために更なる学習環境の向上を望んでいることが読み取れます。今年よりICT教育環境整備を進め、生徒の学習状況を充実させるように取り組んでいきます。

14. 学校は衛生的できれいな環境を整えている

三者ともほぼ良い評価となっています。一昨年、本館トイレの改修を終え、業者清掃や普段の清掃活動を通して衛生面を維持しています。また美化委員による活動は衛生面だけ

でなく、学校全体のマナーの向上にもつながっています。快適な学校生活を送る意味でも「清潔な学校」を維持することが大切です。

15. 学校はホームページやお知らせメール等でよく情報を発信している

保護者の9割近くに評価されています。本校ではホームページを通して学校全般の活動を積極的に発信しています。またメール配信によって配布物の確認、緊急時の連絡なども行っています。今後ご家庭との情報共有の架け橋になるよう活用していきます。

16. 必要に応じて学校と家庭の連絡がとられている

保護者の8割以上から評価されています。本校では学校生活の中で気に掛かることや何かトラブルがあったときにはご家庭に連絡をしています。生徒を良い方向に導いていくためにはご家庭と学校が車の両輪となって協力していくことが大切です。そのためにもご家庭との連絡をより密にしていきたいと思えます。

以 上